山梨県神社庁報

かみがね

第156号（平成24年１月20日）

正月おくりと田植祭

謹賀新年

庁長	羽中田　進
副庁長	藤本　嚴
同	根津　泰昇
本庁評議員理事	小佐野　正史
支部長理事	小山　利行
同	髙原　左門
同	志村　重治
同	深沢　哲夫
同	齋藤　實
同	森越　義建
同	渡邊　主計
同	渡邊　學
神政連本部長理事	佐々木　幸永
協議員会議長理事	桃井　一祝
理事	土橋　勝夫
教化委員長理事	古屋　真弘
神青会長理事	田邉　將之
総代会会長理事	宮川　睦武
総代理事	千野　利雄
顧問	藤原　茂男
同	古屋　眞孝
監事	宮下　莊一
同	小林　弘樹
主事	飯田　直樹
録事	雨宮　千代子
同	金子　雄紀
山梨県神社総代会	役員一同
神道政治連盟山梨県本部	役員一同
山梨県神道青年会	役員一同
山梨県教育関係神職協議会	役員一同
山梨県女子神職会	役員一同
山梨県神職保護司会	役員一同
山梨県敬神婦人連合会	役員一同
山梨県神道雅楽会	役員一同
山梨県氏子青年協議会	役員一同

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

壬辰歳 新春を迎えて

庁長　羽中田　進

新年あけまして
おめでとうございます

輝かしい平成二十四年の新春を迎え、先ず皇室の弥栄を寿ぎ皇国日本の隆昌と繁栄をご祈念申し上げます。

神社関係者の皆様には、希望にみちた新春をご家族お揃でお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は三月十一日の大地震と大津波による東日本大震災、九月には台風十二号、十五号、又各地で集中豪雨が発生し日本列島が風水害に苦しめられました。これに福島原発の事故が重なり災害の年になりました。この災害により尊い御命を無くされた方々に心から追悼の誠を捧げ、被災された皆様には衷心よりお見舞いを申し上げると共に、一日も早い復興ができます様祈念し、支援の輪を拡げたいと存じます。

神社本庁は昨年設立六十五周年を迎えました。終戦後に神宮・神社は一宗教法人として存続することとなり、昭和二十一年二月三日に神社本庁が設立され神宮・神社を統轄することになりました。しかし神宮・神社は戦後の苦難の道を歩む事となりましたが、先人達が行動力と叡知を結集し、切磋琢磨の努力を尽され、難関を乗り越え、現在の神社神道の繁栄を作り上げて参りました。五月二十五日神社本庁設立六十五周年記念大会が東京渋谷ＣＣレモンホールにおいて開催され、神社本庁総裁池田厚子様、常陸宮同妃両殿下のご台臨のもと、記念式典が盛大に執り行われました。本県においても、十月二十四日コラニー文化ホールにおいて、山梨県神社庁設立六十五周年記念神社関係者大会が、神社本庁統理様、神宮大宮司様一都七県神社庁長外多数のご来賓のご臨席をいただき県下の神職、神社総代、関係団体代表多数の出席を得て、設立六十五周年記念式典を盛大に開催する事ができました。本宗と仰ぐ神宮のことにつきましては、神職・神社総代のご理解とご協力により年末の公私ご多忙中神宮大麻頒布にご尽力いただきました。又年間を通して神社祭典振興と維持経営に務められ神社庁の諸事業・行事にも積極的に参画推進していただき誠に有難く、心から感謝と御礼を申し上げます。

今や日本は、国の内外ともに厳しい状況にあり、政治の混迷、経済の不況、教育の混乱、大震災の復興も遅々として進まないのが現状であります。又日本固有の領土である、北方四島、尖閣諸島、竹島の問題、貿易の問題、特にＴＰＰの問題等弱腰外交が目立っております。社会的には凶悪犯罪が多発し、憂慮される現状であります。

山梨県神社庁として、神社本庁の方針である伝統文化を守り神社祭典の振興、神道教化・国民精神の昂揚、神職の資質向上、神社総代の意識高揚、氏子崇敬者の教化育成等を推進し、今忘れ失われつつある日本人の心、日本人の誇りを取り戻すため、日本の伝統文化を基盤に、敬神崇祖・尊皇愛国の心を涵養し、

思いやりの心、和の心をもって絆を育み住み良い郷土、明るい日本の建設のため、神社界が先頭に立って取り組んで参りたいと存じます。神職・総代、氏子崇敬者の皆様方とともに前進いたしたいと思いますので、ご理解とご協力を心からお願いを申し上げます。

年頭にあたり県下に鎮まります神社のご隆盛と、神社関係者各位のご健勝とご多幸を、又ご活躍をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成二十四年の新春を迎え

山梨県神社総代会
会長　宮川睦武

平成二十四年の新春を寿ぎ、神社関係者の皆様とともに新年を迎えることができましたことをお慶び申し上げます。

また、皇室におかれまして、平素より大御心を頂いていることは誠に畏き極みであり、益々のご繁栄をお慶び申し上げる次第であります。

三月十一日の東日本大震災は、被災地の神社や氏子の皆様も含め、甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますと共に、犠牲となられた方々に心より哀悼の意を表します。

我が国経済は、百年に一度といわれる経済不況から立ち直る気配を見せていた矢先に、千年に一度と言われる大災害に見舞われ、不安定な政治においてはTPP参加や沖縄の米軍基地問題など課題が山積し、混迷の度合いを深めており、日本全体はこれまで経験したことのない状況に落ち込んでいます。また、世界に目を向けましても、現在の円高基調、ギリシャの破綻に端を発するEU加盟国や経済大国アメリカの不振により、世界的な経済の不安定化が進んでいます。俗に百年の大計といわれますが、今回の災害などを見るに、完全なる復興と安全、安心の未来に向けては、千年の大計を極めなければならないと思われます。

十二支でいうと、今年は辰年であり、揺れ動く変化の年とされ、「長い冬からの脱出」「自然の草木に勢いがつき、活気を取り戻す」「モノより心を重視」といわれています。

我々にとって、新しい神社神殿および会館が心の拠り所となったように、激動の時代にあって、我が国の復活、発展のためには、敬神崇祖の念を基にした国民の一致団結が不可欠ではないでしょうか。

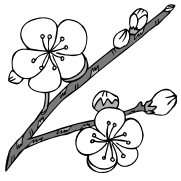
私達の祖先は農耕などを通じ、自然との関わりの中で生活を営んできました。人間は自然の一部であり、自然の力は人間に恵みを与える一方、猛威もふるう、そんな自然現象に神々の働きを感じてきました。

信仰とは、鎮守の森に代表される自然を守り、自然と人間とが共に生きていくこと、地域社会の和を守り一体感を高めていくこと、子孫の繁栄を願い家庭から地域、さらには皇室を頂く日本という国の限りない発展を祈ることです。

震災および経済不況からの復興は、ひとりひとりの信仰心なくしてはありえません。今こそ、祭祀にいそしみ、世のため人のために奉仕し、大御心をいただき、日本の国の隆昌と世界の共存共栄を祈りつつ、歩んで行かなければならないと考えます。

来年平成二十五年には第六十二回伊勢神宮の式年遷宮がとり行われます。皆様の温かいご協力とご参列をお願いしたいと存じます。

最後に、皆様の今年一年が厳しい中にもよろこびの多い年と成ることを信じ、各地に祀られている神々のご加護を頂き、日本の国が栄え、皆様にご加護を賜りますようお祈り申し上げ、皆様はじめ鎮守の氏神様のご繁栄、ご多幸を祈念し年頭の挨拶といたします。



神社庁設立六十五周年
平成二十三年度神社関係者大会

平成二十三年度の神社関係者大会が昨年十月二十四日、山梨県民文化ホールにて開催された。

今大会は山梨県神社庁設立六十五周年の記念大会であった。

第一部の物故神職総代慰霊祭は、物故者ご遺族もご参列のもと、斎主根津副庁長、副斎主古屋理事、典儀森越理事、祭員を青年会員三名、伶人を神道雅楽会員六名の奉仕により、斎行された。

第二部では、高原國佐先生の吟詠、山縣静博先生の詩舞により、献吟が奉納された。

第三部の式典は藤本副庁長の開式の辞で始まり、神宮遥拝、敬神生活の綱領唱和の後、羽中田庁長より式辞が述べられた。次いで、宮川総代会長の挨拶があった後、主事より庁務報告がなされた。

功績表彰では、まず山梨県神社庁設立六十五周年の節目を迎えるにあたり、斯道発展、興隆に多大なる尽力をいただいた神職、氏子総代、崇敬者総代、団体に対し、十項目に亘り二〇六名の方々が記念表彰の栄に浴され、各項目の代表者一名ずつが登壇して、羽中田庁長より表彰状が授与された。

次に、神社庁表彰規程に基づき厳正なる選考、審査により決定した、平成二十三年度山梨県神社庁規程表彰者十名が登壇し、羽中田庁長より表彰状が授与された。

次に、神宮大麻頒布に尽力した神職五名と東八代支部に対し、神宮大宮司のご名代横地神宮参事様より表彰状が伝達された。

次に、めでたく米寿を迎えられた四名の神職に、長寿のお祝い記念品が贈呈された。

次に、来賓の祝辞があり、神社本庁統理の北白川道久様（名代塙東男理事）、神宮大宮司の鷹司尚武様（名代横地克重参事）、神道政治連盟会長の長曽我部延昭様、衆議院議員の坂口岳洋様、甲斐市長の保坂武様の五名の方が、それぞれの立場から祝意を表した。

来賓の方々の紹介、祝電披露の後、被表彰者を代表して、中田峡北支部総代会長より謝辞があり、次いで、小佐野神社庁理事より大会宣言案が読み上げられ、盛大な拍手を以て大会宣言が原案通り採択された。

次いで、神社庁の古屋顧問の先導により聖寿の万歳が奉唱され、千野総代会副会長の閉式の辞によって滞りなく大会は幕を閉じた。

被表彰者抱負

神職四十年を顧みて

大嶽山那賀都神社宮司　日原盛幸

昨年十月開催の県神社庁設立六十五周年記念式典で、二百余名の個人及団体が表彰された。その中の四十年以上の神職十五名の一人として表彰の栄に浴させて頂き、感謝に堪えない。

愚生は昭和四十三年熱田神宮で資格を戴いた。全寮二年制で二学年三十名全員が大部屋一室に同居、寝食を共にした。それは研修と云う感覚でなく、真に日々の生活そのものだった。実に楽しく得るものも多く、貴重な二年だった事が思い出される。

神職としての初陣は同年に久能山東照宮（家康公の御廟）、漆塗・極彩色の社殿は観光客で賑わった。眼下は海、当然社殿の痛みは早い。折しも文化財社

殿の塗替工事が始り、その工程や社殿の護持管理についても若くして学ぶ事が出来、貴重な体験だったと思いを新たにしている。

同四十七年、多賀大社本殿御造営に際し出向の命を受け転勤。講社が県内外に多く存在し、当時既に鉄筋コンクリートの近代的宿泊施設が在った。神職数は二十数人と記憶している。祭儀の時には先輩の衣紋を次々と手伝い、愈々自分の着装の時には時間が無く、よくよれた姿で奉仕した事が懐かしく思い出される。

昭和四十九年秋、父の老齢により帰る事になった。神社庁には昭和五十五年から平成五年まで竹内参事のご薫陶を受けながら種々な研修にも参加させて頂き、中でも明階研修は心に残る尊いものであった。

人生最後の本務社は山間僻地の大嶽山那賀都神社。神職就任当時からすると斯界を取り巻く環境の悪化は歴然とし、特に近年は田舎ほど顕著となり、神社の行末が案じられてならない。

平成十二年、父の後宮司を拝命。時恰も社殿は改修の要に迫られ事業を発起。幸い崇敬者の御支援・御協賛を頂き、平成二十三年六月、二年半の工期を経て社殿修復が辛うじて叶った。

「神職にして四十年」何と早い事か。しかし大過なく今日在るは、偏に神明のご加護と、赴く先々で縁あって御教導下さった諸先生・先輩諸兄のお陰と今更ながら感謝に堪えない。

山奥の一人奉仕は寂しさもあるが自分なりに微力を尽したい。

一實神社総代
樋口八郎

平成二十四年の新春を迎え、神社庁の神社関係に携わる皆様の健やかな良い年をお迎えの事とお喜び申し上げます。昨年、三月十一日東日本大震災で東北三県が大きな被害を受け多数の命が失われ、行方不明者も多数いることを思うと全国民が心を痛めております。日常生活に、一日も早く戻れます様切望しております。見舞金として、株式会社ヒグチの代表者として二十万円をＹＢＳを通して寄附させていただきました。

私樋口八郎は、神社関係の仕事は地区内の一実稲荷神社の総代に、昭和五十五年四月に就任して、甲府市総代会理事をおおせつかり現在に至っております。

私は昭和八年四月三十日生れで七八才です。昭和平成の年月を過ごし大東亜戦争の七月六日甲府の大空襲にあい一夜にて全てを失いました。幸いにして家族八人は全員無事でした。湯田小学校六年生で食糧不足のひどい時代でした。

これは個人的な話になります。長兄譲（ゆづる）が、小学校四年の時足の骨髄炎にかかり母の厚い看病のもと命はとりとめましたが足の関節が曲らなくなり当時戦時中のため入学試験に教練があり甲府中学へは入学出来ませんでした。甲府商業の夜間に入り頑張り中学四年の時慶應義塾大学へ合格しました。

独学で語学を勉強し英語が得意でマッカーサー元帥のＧＨＱの演劇課長パワーズ氏の秘書として働き特に演劇関係の仕事をして、歌舞伎界のトップに近い地位をしめました。その後、アメリカへガリオアの留学生として渡米し、エール大学に留学を致しました。アメリカの演劇関係の勉強をして戻って参りました。帰国後、日本テレビの開局を前に日本テレビオーナーの正力松太郎の秘書をして開局後はプロデューサーとして勤務しました。テレビ局の宗教の時間の番組の責任者として貢献をしました。その後、バチカンを何回か訪問しローマ法皇ヨハネ二世様より勲章を二回いただきました。ローマ法皇が日本を来訪したい希望があり本来ならばＮＨＫがテレビ放送するべき大きな仕事ですがＮＨＫは宗教関係を放送しない定まりがあり日本テレビが放送する事になりました。

ローマ法皇と兄との関係が深いため日本の青年との対話集会を日本武道館に於いて興業を特別番組でテレビ放送いたし兄の総責任のもとで大成功の内に終ることが出来ました。

総代会全員で町内皆様の健康と幸せ、一実稲荷神社の繁栄を心から祈っております。

神様にいただいた尊い生命を大切にして、感謝の気持を忘れる事のない様、毎日を、過ごしたいと思います。

神宮大麻、暦頒布始祭

東八代支部長　志村重治

去る十月十二日の午後一時三十分、山梨県神社庁神殿において平成二十三年神宮大麻、並に暦頒布始祭が斎行されました。会場には羽中田進山梨県神社庁長、宮川睦武県神社総代会長はじめ、県内神職、氏子総代、神社関係者多数が参列し、来賓の神社本庁轡田総合研究部長のご臨席も賜わり、厳粛に執り行われました。頒布祭の祭員には東八代支部神職が当たり、斎主志村支部長、副斎主植松真芳、祭員、津金八千代、吉川、桑原典儀、古屋真弘の各氏と、奏楽を山梨県神道雅楽会の金子、中村、中川、松田、篠原、秋山の各氏がそれぞれ奉仕されました。頒布始祭を終え、斎主から県下頒布奉仕者代表の深沢哲夫峡南支部長に県下に頒布される神宮大麻十二万体と暦が授与されました。式後直会が開かれ、羽中田県神社庁長から神宮大麻増体に向けての協力要請の挨拶があり、続いて来賓の神社本庁轡田部長からご挨拶があり神宮大麻頒布運動の意義と必要性について述べられました。宮川県神社総代会長から大麻頒布に向けての力強い乾杯の発声の後、参加者との歓談の時間が持たれ、午後三時、閉会いたしました。

今年は未曽有ともいわれる東日本大震災を被った大変な年でありましたが、相助け合う共同協調の和と強い絆の国民性が確認された年でもありました。

神宮大麻は申し上げるまでもなく、日本の総氏神、伊勢神宮の広大無辺の御神徳を仰ぎつつ家族や職場の平安等を祈って、あらゆる災厄からお守りを頂き、生きる力を賜わるものです。

神宮大麻を、県下に漏れおつる事なく遍く広くご奉斎頂くよう。増体運動に努めましょう。

山梨県神社庁神殿新嘗祭

峡南支部員　稲葉政信

去る平成二十三年十一月二十四日、神社庁神殿新嘗祭の前に、天皇陛下の御名代として皇太子徳仁親王殿下がご来県あそばされるということで、神社庁理事を始め、県内神職総代他、県民約六〇〇名が甲府駅北ロータリーに集結し、皇太子殿下の御奉送を賑やかに行った。御奉送終了後、関係役員他神職総代は神社庁に戻り、秋の収穫に感謝する神殿新嘗祭が厳粛な中斎行された。祭典奉仕は峡南支部であり、斎主が支部長の深澤哲夫十五所神社宮司、副斎主が副支部長の近藤政房浅間神社宮司、祭員が支部員の稲葉和仁若宮八幡神社宮司、深澤順子十五所神社禰宜、稲葉政信一宮賀茂神社宮司、典儀が支部員の望月和好八幡神社宮司である。雅楽は、山梨県神道雅楽会が奉仕を行い、羯鼓・和琴が秋山忠也稲積神社禰宜、太鼓が中村宗彦牛倉神社宮司、鉦鼓が内藤寛武田神社禰宜、笙が松田公仁天神社宮司、篳篥が篠原康正稲積神社権禰宜、竜笛が中川武仁甲斐奈神社禰宜である。

まず、羽中田庁長、宮川総代会長他参列者が着席をし、定刻の午後一時になると、号鼓の後、音取の音色の中、斎主以下祭員が参進著席をした。続いて修祓、副斎主の祓詞の後、大麻と塩湯により、神饌、玉串、祭員、参列者が清められた。斎主一拝に続いて開扉、斎主の手により、外陣の扉が開かれた。次に献饌、副斎主以下祭員の手により、十台の神饌が本殿に供ぜられた。次に、斎主が祝詞を奏し、玉串拝礼では、斎主を先頭に副斎主以下祭員が座後列拝、次に羽中田庁長に合わせ神職が拝礼、次に宮川総代会長に合わせ総代が拝礼を行い、徹饌、閉扉、斎主一拝と続き、音取の音色の中、斎主以下祭員が退下し、神事は滞りなく斎行された。

まんが古事記（第三話）

「全国神社保育団体連合会」提供
問い合わせ　東京都渋谷区代々木一―一―二
神社本庁内
電　話　〇三―三三七九―八〇一一
一冊　一二〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。

あらすじ

いたずら好きな須佐之男命は、高天原でいたずらばかりしていました。しかし、そのいたずらがあまりにも激しいので、日頃心のやさしい天照大御神さまも、さすがにお怒りになられ、天岩戸に隠れてしまわれました。

たちまちこの世のなかは、まっ暗闇となり大混乱です。そこで思兼神という賢い神さまが八百万神々を集め、天照大御神さまを天岩戸からおだしする一計を案じるのでした。

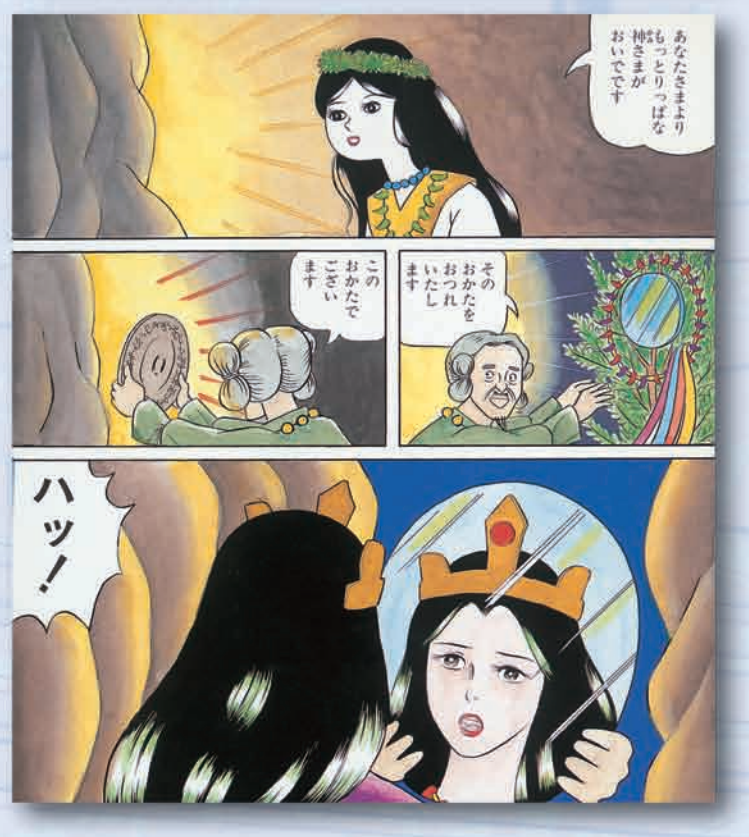
あつめてきました
かがみをつけました
ココココ・・・ココココ・・・
おうそろったか
天手力男神も
天宇受売命もやってきました
まずニワトリをなかせなさい

みんなはたのしそうにてをたいたりわらったりしなさい
宇受売命はおもしろくおどり……
手力男神は岩戸がすこしでもひらいたらおもいきってあけなさい
いいですかなよういができたらはじめましょう

コケコッコー
まずいちわのニワトリがなきました
コケコッコー
つづいてたくさんのニワトリがなきました
天宇受売命はつるくさをあたまにまいて
パチパチ
ささのはをてにもっておどりはじめました
トントン

ドンドン
ピーヒャララー
ポロン
ポロン
神さまたちはてをたたいたりうたをうたったりしました
パチ
パチ
パチ

？
どうしたのかしら
わたしがかくれているのに……
なぜたのしそうにしているのかしら


あなたさまよりもっとりっぱな神さまがおいでです
そのおかたをおつれいたします
このおかたでございます
ハッ！

（一五七号　第四話へ続く）

神社庁顧問参与会

恒例の神社庁顧問参与会が十二月八日、甲府の談露館で開催された。

第一部の例会では、羽中田庁長より新参与七名に委嘱状が交付され、羽中田庁長、千野総代会副会長よりご挨拶をいただいた後に、飯田主事より神社庁事業概況報告が行われた。

第二部では、前衆議院議員の赤池誠章氏より「教科書採択問題に見る日本・山梨の教育の実態」というテーマで貴重な講話をいただいた。

第三部の懇親会は、終始和やかに懇親を深め、盛会裡に終宴した。

新参与所感

新参与所感

長田敏貴

私、本年度神職身分二級拝命を受け、また新参与の任をいただき、誠に身のひきしまる思いと共に、その職の責任の重さをあらためて思う所でございます。

さて、私も神職になり早くも三十年という長い年月が過ぎ、地元の三社の宮司を拝命することとはなりましたが、神職がいかに神明奉仕を通して、氏子をはじめ地域住民に祭祀へ参加してもらい、氏神様を通し神道を身近に感じていただき、神社を盛り上げていき、さらには地域祭祀を次の世代に引き継いでいけるようにと思う所でございます。そしてこの度このような重き任をいただき、まだまだ力不足ではございますが、少しでも地域の為、神社界の為に、微力ではありますが、がんばりたいと思います。

〝中今〟を生きる

津金八千代

目に見えない神様の大きな働きの中で生かされる私達。

祖先が居てくださって私が存在し、子へ孫へと命は続いて行く…私はその繋がりの中今を懸命に生きております。

二十年前に亡き父の後を継ぎ、未熟ながら神明に奉仕して参りました。振り返りますと祭祀、研修等、反省すべき点など多々有りましたが、多くの先生方、諸先輩の皆様方にあたたかいご指導を賜りました事も懐かしい思い出でございます。

今、私がこうして神職としてお務めできますのも、私を支えてくださった沢山の方々のお陰様だと心から感謝致しております。

今回、参与と言う重責を頂きました事で、益々神職として『神様と皆様を繋ぐ務め』が果せます様、自らの心を磨き続け、又与えられた女性としての立場を生かし、確かな存在となります様尚一層努力して参りたいと思います。

これから先の〝中今〟の今を、神社を中心とした中で、生き続けて行く覚悟でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

参与に就任して思うこと

祝　與一郎

社家の長男として生を受け、幼い頃より、宮司として神社に奉仕する父の後姿を見て育って参りました。

社会人となり、家を継ぐため昭和四十八年、地元の会社にユーターンしたものの仕事に追われる毎日で、遅ればせながら、昭和六十三年、四十歳になって、國學院の神職養成研修を受講し神職の一歩を踏み出した次第です。資格を取ったとはいえ、神社への奉仕は父任せで、六十歳になり会社を退職してから、ようやく父に代わって神社の奉仕をさせていただくようになりました。

平成二十年と二十一年春に一都七県中堅神職研修会受講、二十一年春、伊勢の中堅神職研修会受講の機会をいただき、神職としての在り方、礼儀作法等、一から学ぶことが出来、神職としての心構えを新たにしたところです。これまでお導きくださった諸先生方にお礼を申し上げると共に、今後もご指導をいただきながら、神道発展に寄与するよう努める所存です。

全国教化会議に参加して

教化委員長　古屋真弘

去る十一月十日、十一日神社本庁において、「平成二十三年度全国教化会議」が開催され、全国から教化担当者七十名が参集した。

今回は主題を「統一性のある教化活動の展開を目指して～神宮奉賛活動と鎮守の森を中心にした神道の自然観の啓発に向けて～」とし、今年度から三カ年継続の教化実践目標の中から特に「神宮の奉賛活動」「神道における自然観の啓発」にテーマをしぼり進められた。

初日には田中総長から今後の神社本庁の事業計画について話しがあり、小間澤教化部長から「統一性のある教化活動の展開」について説明がなされた。

次に埼玉県古宮神社の宮司を務める茂木貞純國學院大學教授と千葉県白幡天神社の鈴木啓輔宮司から発題がなされ茂木教授からは式年遷宮が持続可能なエコシステムであること、「田んぼ学校」を通して子ども達と米作りに励み、お米の大切さ、自然の重要性を感じている等の事、鈴木宮司からは森林の役割と自然との共存について話しがなされた。

その後四つの分散会に分かれ話し合いが行われ、各地から稲作体験、自然と親しむ事業などが紹介され、さらには「統一性のある教化活動」を全国的に展開するためには、講師派遣や宣材提供を含めた神社本庁の更なる対応を求める意見が多くあった。

このほか東日本大震災で大きな被害のあった宮城県気仙沼市大島在住の小松勝麿宮城県神社庁教化部長から震災に対しての神社庁の対応や被災地の様子などを紹介され、精神的なケアも含め、長期的な視野にたった支援が必要であると話をされた。

その後の全体会においては、「全国的に広がりを持った、多くの国民に訴えられる事業を展開すれば、斯界全体にとって効果的な活動となる」といった意見も出された。

青少年対策研修会を受講して

教化委員　稲葉政信

平成二十三年十月三日より三日間、北杜市清里の清泉寮において、青少年対策研修会が開催された。とは言っても、青少年が抱える様々な問題について議論を深める研修ではなく、自然体験を通して五感を研ぎ澄まし、感性を高める中で自然と対話をし、延いては心が浄化され、人間として正しい道へと誘う、そんな研修プログラムである。自然の中で体感するプログラムなので、それを鎮守の杜で応用して、神道教化に役立てるのが狙いである。

本研修は、清泉寮を経営している財団法人キープ協会が、本庁より委託を受け開校しており、子供から大人まで幅広い年代層向けに、自然体感プログラムを立案実行している。

そんな体感型プログラムの一端を以下にまとめる。

一、アイスブレイクプログラム。画用紙に各々が自己紹介を書き、それをネタに一対一で自己紹介ごっこをして、知らず知らずの内に仲間の距離感を縮めるもので、皆の前で一人で自己紹介するよりも、相手が短時間で理解でき、距離感を瞬時に縮める事ができる。

一、鏡を上向きに目の下に当て、そのまま森の中で歩行。視界が木々の上方になり、それはまるで空中浮遊をしているかのようで、今まで体験した事が無い錯覚を覚える。

一、森の中に御座を敷き、その上に寝そべり、静かに目を閉じてみる。普段気付かなかった様々な音、香り、光、感じる事ができる。

一、ある色を題材に、自然にあるもので同じ色を見つける。葉っぱだったり、小枝だったり、キノコだったり、意外と同じ色をみつけるのは難しい。

まだまだ、書き足らないが、この体験を鎮守の杜で生かしていきたいと思う。

震災復興ボランティア報告

山梨県神道青年会員　小澤輝展

平成二十三年九月二十八日に行われた神青協一都七県協議会による福島県いわき市久之浜諏訪神社氏子区域の復興支援活動に参加して参りました。山梨からは、乙黒相談役、今村監事、竹埜事業部長、金子会員、私小澤の五名での参加となりました。集合場所である道の駅四倉港にて各単位会の点呼、装備品の配布等の後、現場のいわき市久之浜へ移動しました。まず、諏訪神社前の広場で結団式を行い、久之浜諏訪神社宮司、禰宜、一都七県協議会会長、またいわき地区の神職の会美浜会会長の挨拶の後、作業が開始されました。ここは福島第一原発から三十一キロの距離にあり、警戒区域に隣接するこの付近はボランティアの方の数も少なく今なお復興が遅れているとの事でした。作業は三班に別れ、民家の瓦礫撤去に従事致しました。家の中はまだ震災直後のままで、その様子から地震、津波の凄まじさを実感しました。今回は、六十三名の参加で、可燃物、不燃物、電化製品等に仕分けし、五軒分の民家の家財道具を搬出する事が出来ました。今後もこういった活動には積極的に参加し、少しでもお役に立てるよう努めて参りたいと考えております。

東京矯正管区内神社本庁教誨師教養研修会に参加して

教誨師　佐々木高仁

去る十月九日、標記の研修会が神社本庁会議室において開催された。東京都神社庁が主催して初めて開催され、約三十名が参加し、本県からは根津教誨師と共に参加した。

全国で「暴力団排除条例」が制定施行されてきており、暴力団からの離脱、再犯防止に関わる改善指導を学ぶ目的で開催された。本県においても昨春頃から甲府市内で暴力団抗争が市民生活を脅かしており、又種々の祭典から露天商が排除されるなど神社界としても真剣に考える時である。

開会式に引き続いて、全国暴力追放運動推進センター参与・特別講師の中林喜代司氏が「暴力団離脱について」と題して講義した。氏は離脱指導がより効果を上げるには行政施設内での指導と施設外での支援が有機的に連結しなければならないと説明し、「神社関係者は祭りを取り仕切る者を再チェックしてほしい」と述べた。又府中刑務所の刑務官三名の講師がそれぞれ、実際に行っている改善指導プログラムについて講義がありました。

神道雅楽会活動報告

山梨県神道雅楽会
会長　秋山忠也

当会は、神職、神社関係者が日本の伝統文化、芸能である雅楽を修得し祭祀厳修は元より次代に伝えるべく稽古に励んでいる。活動の中心は神社庁祭典雅楽奉仕であるが、数年前より行っている学校演奏、地域生涯学習会等にその活動の場を広げている。

昨年の主な活動は次の通りである。

武田神社例祭伶人奉仕、ことぶき勧学院東八代学園、東山梨学園雅楽講演、忍野村立忍野小学校雅楽演奏、緑陰子供会雅楽演奏、雅楽合宿、芸術ふれあいワークショップ出演、峡南支部大麻頒布始祭伶人奉仕、韮崎婦人学級雅楽演奏、武田の杜音楽祭出演、都留市立旭小学校雅楽演奏、同市立禾生第一、第二小学校雅楽演奏、この他各神社の神前挙式、神葬祭等の依頼にも応えている。

このように活動が充実、発展して来ている事は喜びに堪えない、これも偏に上明彦先生の指導の下に会員が熱心に稽古に励んだ結果である事は申すまでもない。これからも目的達成の為研鑽を重ねて参りたい。

会員募集中、貴方も雅楽を始めてみませんか!!

祭典を斎行して

武田八幡宮

宮司　藤原武男

十月十日午後三時宮司以下四名正服に身を整え手水後、一三八段の石段を参進、拝殿には氏子総代長はじめ全員着座、来賓は奉賛会長・武田神社宮司・韮崎市長・県議・市議・諸団体代表に参列賜わり式が斎行された。この祭は「韮崎市武田の里祭り」の一つになっており多くの市民が祭りを楽しむ。境内では神楽の奉納をはじめ韮高弓道部ＯＢによる巻わら謝礼・武道愛好家の抜刀術・当番組と実行委員会による餅つき・お楽しみ抽選会・射的・酒の試飲・甘酒・育成会による児童生徒の作品展示・午後四時から御神輿の渡御等多くの神振行事が繰り広げられる。祭に先だち八月より祭典実行委員会が数回開かれ、十月に入ると氏子総出で境内の清掃・花飾りの花造り・当番組は幟を立て準備をする。祭の次の日、氏子総代が各戸へ神札と餅を配り全てが終了する。戸数七十二戸の氏子が奉賛会の協力を得て全戸一丸となり全力で取り組む武田八幡宮例大祭である。

穂見神社

宮司　野中陽

高尾祭

穂見神社は、南アルプス前衛の櫛形山中腹高尾地区に鎮座し、例祭は、十一月二十二日の夜を中心に二十三日に掛けて、紅葉錦織りなす景観の中で斎行されます。長い文化交流の中で、商売繁盛の神として信仰され、資本金を貸付けるという特異な信仰形態も珍しく、今年も長野県を中心とした「講」の皆さんを始め、大勢の老若男女が祈願に訪れました。多くの方々にご神徳がありますよう、心からご奉仕させていただいたところです。天皇陛下の御病気平癒を祈願させていただきました。

祭典日程

1・9～10　一宮町中尾神社道祖神祭
1・14　河口乳ヶ崎金山神社御幣渡し
2・3　稲積神社初午祭
2・6　市川三郷町上野表門神社祭
2・8　稲積神社針供養祭、御坂町二宮美和神社湯立祭
2・11　藤田八幡神社紀元祭
2・17　建岡神社祈年祭、稲積神社祈年祭、南アルプス市高尾山穂見神社祈年祭
2・21　大泉町逸見神社祈年祭
3・11　甲斐一宮講社大祭、山宮神幸祭
3・15　甲府市柳町太神宮例祭
3・23　甲府市上向山佐久神社祭
3・25　天神中條天満宮祭
3・30　甲州市塩山上萩原神部神社祭
4・1　御坂町二宮美和神社祭
4・5　八代北熊野神社祭、山梨縣護國神社春季大祭
4・8　甲府天津司神社例祭、甲府市上帯那町脚気石神社祭
4・12　武田神社例祭、南アルプス市下宮地神部神社西御幸祭
4・14　武川町牧原八幡神社例大祭
4・15　長坂町下条若宮八幡大神社祭、甲斐一宮浅間神社大御幸

年男 年女 平成二十四年 壬辰

鎮守の杜を守り継ぐ

春日神社宮司
渡邊　學

辰年の今年五回目の年男を迎え早いもので還暦の年と成りました。私の家系は、先祖代々春日神社を守ってきました。春日神社は当初は百蔵山に鎮座していたが、山火事に遭い文和二年に麓の梨木戸の現在地に遷座した神社である。私が生まれた昭和二十七年は先々代の宮司が病気で入院中に學と名付けた名付け親である。

その名付け親が私の初宮参りの朝に亡くなり、先代の宮司父の渡邊彰が後を継ぐ事となった。私は子供の頃より神社の掃除などを手伝って以来、昭和四十九年禰宜に成り会社勤めをしながら神社に奉仕してきました。平成五年宮司病気の為に、私が宮司の代務をして来たが平成十七年に宮司が亡くなり、宮司を受け継ぐ事に成り氏子を始め総代の協力により鎮守の杜を守る事が出来ました。辰年の節目を迎え初心に還り頑張りたいと思います。

「去年今年」

諏訪神社禰宜
齊藤　茜

新年を迎え昨年を振り返りますと、震災による自然の脅威を感じた年でありました。環境が時代と共に変化する中で自然と共存する難しさ、大切さを痛感し、自然を軽視した生活を見直す時期にきているのではないでしょうか。

個人的には昨年の経験を活かしステップアップしたいと思います。実習先神社の先生方には多岐にわたりご指導賜りました。初任神職研修においても神務実習と同様に県内神社界の現状や先生方のご経験談等、今後の神職活動において大変有意義であり貴重な経験となりました。

昨年は多くのことを学ぶ機会を頂きまして先生方始め多くの皆様に感謝しております。今年も昨年同様皆様のご指導を戴くと存じますが少しずつでもお返し出来るよう頑張りたいと思います。今年の干支の「辰」にかけまして「立つ」の様に復興の思いを込め、日本が新たに立ち上がる年であることを祈ります。

表紙写真説明

お正月の田植え祭

古来より正月の松飾は田に送る農家が多かったが、今はほとんど見られなくなった。

（山梨市の農家より）

瑞穂の国の伝統を繋げ、命をつなげて行く米作は今も続けられている。

お正月の田植え祭は、毎年一月十一日道祖神祭りの神立の日の早朝、家族と近隣の親族で行っている、暮れの十二月三十日新年を迎える松飾りをして、歳神さんを迎え、お正月を祝い、この年の豊作を祈念して歳神様の田送りをします。

4・16　祭、南部町諏訪神社祭、鰍沢町八幡神社祭、西桂町小沼諏訪八幡神社祭、富士吉田市大明見小室浅間神社祭、富士吉田市小明見富士浅間神社祭、甲府甲斐奈神社例祭、甲府玉諸神社例祭、松尾神社例祭、酒折宮献詠祭、市川三郷町宮原浅間神社例祭

4・18　長坂町日野熊野神社例祭、富士川町平林氷室神社祭

4・19　長坂町渋沢神明社例祭、穴切神社祭、山梨市三富大嶽山那賀都神社例祭

4・20　新倉富士浅間神社例祭、新倉琴平社例祭

4・21　韮崎藤武神社新府祭

4・22　御岳金桜神社例大祭

4・25　御岳金桜神社例大祭

4・29　長坂町富岡開拓神社祭、五開鳥屋吹上天神社祭、河口浅間神社孫見祭、勝山富士御室浅間神社里宮花見祭、大石鷸鷸嶋社例祭、高根町箕輪建部神社祭、江草勝手子安神社祭、大月三島神社祭、甲斐市山縣神社神徳顕彰祭、南アルプス市山寺八幡神社祭、甲斐市松尾神社例祭

神殿祈年祭のお知らせ

神殿祈年祭を下記の日程で斎行いたします。

記

１、日　程　２月15日㈬

祈　年　祭　午後１時30分

教化講演会　午後２時30分

講師　日本文化チャンネル桜

代表　水　島　　総　氏

伊勢神宮「式年遷宮」パネル展開催

教化委員会では、本年度も下記により、第62回式年遷宮の啓発と広報を目的に写真パネル展を行います。入場は無料です。

記

開催期間　１月26日㈭～２月１日㈭

開催場所　岡島百貨店７階催事場

神殿例祭、神職初会のお知らせ

神殿例祭並びに神職初会を下記の日程で斎行いたします。

記

１、日　程　１月26日㈭

神殿例祭　午前10時30分斎行

神職初会　午前11時30分開会

講　　演　山梨県神道青年会

「震災復興支援活動報告」

山梨県神道青年会 創立60周年記念大会の御案内

山梨県神道青年会創立60周年記念大会が下記の内容で開催されます。

記

１、日　時　２月21日㈫

午後１時受付

２、会　場　甲府富士屋ホテル

３、日　程

記念式典　午後２時

記念講演　午後３時15分

講師　永世棋聖　米長邦雄先生

記念祝賀会　午後５時30分

靖國神社、山梨縣護國神社参拝旅行

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社、山梨縣護國神社参拝旅行を三月に実施するよう企画しております。詳細な日程が決まりましたら御案内いたします。

神職研修会の案内

恒例の研修会を左記の日程で実施致します。

神職は生涯の研修を通じて己を磨くことにより氏子・崇敬者の信頼を得ることができます。他支部の研修を受けることもできますので、積極的にご参加ください。

記

一、日程と会場

①甲府支部
三月九日（金）　神社庁

②東山梨・東八代支部
二月二十六日（日）浅間神社

③峡南・峡中・峡北支部
五月二十六日（土）神社庁

④南都留・北都留支部
五月二十九日（火）松尾神社

受付　八時三十分
開講　九時

155号訂正について

P17　表紙写真説明　後から３行目

誤）長宗我部→正）**長曽我部**

P20　祭典日誌　武田八幡宮

誤）11・14　→正）**10・12**

以上、訂正しお詫び致します。